



四国・内子宿

白壁の美しい屋敷や町屋が建ち並び、お遍路さんが往来する街並みは愛媛県内子町八日市護国地区にある。私はまるで時代劇のセットの中に入ったような錯覚をおぼえた。江戸時代末期から明治期にかけて木蠟もくろう生産で繁栄したと言っただけあって、豪壮な街並みが形づくられた。重要文化財に、上芳我邸かみはがて（木蠟資料館）はじめ3カ所が指定され、さらに四国では初の重要伝統的建造物群保存地区として1982年（昭和57年）に選定された。江戸時代は大洲や松山間を繋いだ旧街道沿いに形成された街並みで、金毘羅参詣やお遍路道だけに江戸時代を髣髴とさせるのである。また、1916年（大正5年）に商家の旦那衆によって建造された内子座は木造二階建て瓦葺き入母屋造りの地方歌舞伎劇場で、回り舞台、花道、マス席まで設けられ見ごたえがある。2016年（平成28年）には創建100周年を迎え、さまざまな催しが計画されている。「安易な観光手段ではない、住民にとって住み易い環境づくり……」の理念も素晴らしい。

（写真・文 樋口健二）